

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

いただいたご意見の概要に対する区の考え方

《計画全般について》

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
1	荒川区における小・中学生の読書量についてのアンケート結果で、平成27年度と令和元年度を比較して、令和元年が増加しているのは荒川区が実施している読書活動の推進事業が数字として表れているようである。	【P35】 区では学校図書館をさらに魅力あるものとするための蔵書や設備の充実・更新を図ってまいりました。蔵書数については国の基準冊数に対する充足率が平成27年度から向上し（小学校：173%、中学校：147%〔令和2年度〕）、全国でもトップクラスと言われています。小・中学校では、校長を学校図書館長として、学校図書館の蔵書の充実や学校図書館を活用した授業を組織的・計画的に進める中で、読書活動の活性化に取り組んでおります。 また、図書館を使った調べる学習コンクールや柳田邦男絵本大賞の応募件数も大きく増加いたしました。 区立図書館においても、図書館員が各学校へ訪問し、読み聞かせやをおすすめ図書をPRしたり、区立図書館の図書資料を各クラスやふれあい館等へ貸し出すサービスも行っています。 こうした継続的な取組が小中学生の読書量の増加につながっていると考えており、引き続き小中学生が読書に親しめるような取組みを推進してまいります。	○
2	主に小説を読んできたが、乱読を重ねるうちに同じ作家のものを読むようになり、物語は様々だが、作家の意図は同じように見え、その思いに共感を覚える。人は誰でも望む生き方を心の中に秘めていると思っている。それが形を変えて小説になっているから面白く読める。もしも若くして魂が揺さぶられるような一冊の本に出会ったなら、それは生き方の方向さえも決めることになるかもしれない。きっかけはどこに転がっているかわからない。私は今でもそんな一冊に出会えるかもしれないと思い、読書を続けている。	貴重なご意見ありがとうございます。子どもたちが読書を通じて様々な感動が得られることを期待し、本との出会いの機会を増やすことができるよう本計画に基づき各事業を推進してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
3	私は聴覚障がいがある。読書は幼い時から老年に至るまで、知的でありながら <u>簡単</u> で、その人の人生を深く豊かにしてくれるものであり、私は生きること大切なものとしての本を見つけ、日々励まされている。幼い頃や若い時から読書の習慣があることは大切で、生涯にわたって楽しめる本に恵まれる機会がなかったら、障がいがあっても一人で楽しめることに出会えなかったと思う。	読書から得られる感情や表現力、想像力は知的で心豊かな生活に大きく貢献するものと考えます。子どもたちが読書の楽しさ・大切さを知り、成長して大人になって次世代にも主体的な読書活動を導くことができるような好循環を生む「読書のまちづくり」が実現できるよう各施策を推進してまいります。	○
4	家庭、地域、小中学校、区立図書館、読書のまちづくり計画は具体的に作成されており、本との出会いで子どもたちの心に栄養をあたえ、豊かに成長し、生きる力を育んでもらいたい。	荒川区全体が「読書のまち」になるためには地域（区民、団体）、家庭、学校、区が一体となって、いつでも、どこでも、誰もが本に親しむことのできる読書環境の整備を推進していくことが必要であると考えております。本計画においても、そういった観点から新規・充実事業を盛り込み、事業展開を図ることとしています。これを着実に推進し、読書を通じた子どもの健やかな成長を目指してまいります。	○
5	今回、荒川区子ども読書活動推進計画（第四次）を読んで、読書のまちづくりとして、区立図書館や様々な読書活動を通して幼児から高齢者に至るまでの全世代にわたって読書習慣を身に付けようとする区の姿勢に深く共感を覚える。	子どものときに身に着けた読書習慣は、生涯にわたって続くものと考えております。本計画に掲げた様々な施策の実施を通じて、子どもの読書活動を推進し、読書を通じた子どもの健やかな成長を目指してまいります。	○
6	子どもの出生以前から読書に対する細かい環境配慮、幼児期、小学生、中学生と段階的に図書資料が用意され、区民は幸せです。人として生きていくにあたり、読書によって豊富な知識と豊かな心で人生を歩むことができると思う。内容の豊かさと立派な図書館、障がいがある人にも思いやりのある配慮、子どもから高齢者にいたるまで読み聞かせの実施、有難いことである。読書するのに恵まれた環境をいかに受け入れてもらえるかの工夫が大切だと思う。	区ではこれまでも学校図書館の拡充やゆいの森あらかわの開設等、読書環境の整備を行うとともに子どもから大人向けのおはなし会や障害者向けサービス等、読書活動推進のための事業を積極的に進め、「読書を愛するまち・あらかわ」を推進してまいりました。区政世論調査によりますと「図書館の年間利用頻度が0回」が5割強という結果も出ていますので、今後もあらかわ区報やホームページ、SNS等を活用して読書環境や読書推進事業の普及促進をしてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
7	基本的にこの素案でやるべき事、やりたい事は理解出来るが、具体的にどの様に進めて行くのかが記載されていない。例えば荒川区ゆかりの文学等に興味があるが、どの様に区民へ情報発信し拡めて行くのか、その手法がぜひ知りたい。その手法が一番重要だと思う。	【P75】 ご指摘のありました、『荒川区ゆかりの文学』につきましては、現在、各区立図書館では『荒川区ゆかりの人』コーナーを常設し、関連本を多数展示することで大変好評をいただいています。区ゆかりの文学についても情報発信を強化し、一人でも多くの方に手にとっていただけるように取り組んでまいります。具体的には吉村昭記念文学館や図書館でのイベント時のPRのほか、あらかわ区報や区報ジュニア、ホームページ、SNS等を活用して周知の強化を図ってまいります。また、図書館内でもコーナーへ誘える案内掲示を行う等、区立図書館一丸となって推進してまいります。	○
8	幼児期からの読書への接触は大変有意義だと思う。また、今日、幼児虐待等、子育ての孤立が問題になっているので、その防止の視点からも図書館の活用を期待している。	【P56～57、64】 虐待や子育ての孤立問題に関しては喫緊の課題として捉え、全庁を挙げて予防に向けて取り組んでおります。図書館においても子ども家庭総合センターの協力も得ながら、子どもが読んで理解できる本を展示し、自分が虐待を受けていないかと認知できる機会を提供したり、職員が虐待や子育ての孤立などで小さな気づきも発見できるよう職員の意識を一層向上させてまいります。幼児期からの読書への接触については、新生児・3歳児への絵本贈呈や図書館員による赤ちゃんへのブックスタート、ゆいの森あらかわや尾久図書館の開館による児童コーナーの機能充実等、読書環境整備を図ってまいりました。また、区立図書館は課題解決を支援する場として様々な課題に対して情報発信をしていますので、区民に寄り添いながら利用者の課題解決に向けた支援ができるよう、図書館利用の普及促進を図ってまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

《施策の柱１》

子どもたちが本と出会い、読書の大切さや楽しさを実感できるよう、家庭や身近な施設における読書活動を推進する ～未就学児の家庭や身近な施設における読書活動の推進～

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
9	子どもへの読書啓蒙は、まず保護者への啓蒙が大切だと思う。保護者が図書ステーションで子ども向け読み聞かせ用本を利用した場合、ポイントを付与し、ポイントに合った区内お買物券等を発行し、利用していただければ本の読み聞かせを促進できるのではないかな。	【P56～58】 保護者への啓発活動につきましては、出産を迎える方に向けた読み聞かせ講習会の開催や新生児・3歳児への絵本贈呈、乳幼児を対象としたおはなし会の実施、未就学児の保護者に対する読み聞かせ手法の習得支援を行っているところです。今後は家庭内で同じ本を読み、感想を話し合ったり、本を薦めあったりする家読を推進してまいります。 また、区では図書館で借りた本の履歴を金融機関の通帳のように記帳できる「読書通帳」を提供し、読書履歴を目に見える形にすることで、読書意欲を促進し読書通帳が更に広がるようPRを図ってまいります。 ご提案の本の読み聞かせ促進策については、今後の検討の参考にさせていただきます。	☆
10	こんなにたくさんの読書活動を推進していることを知らなかった。小さな子どもに本を好きになってもらうには、保護者の方への“おすすめ本”も。	【P56、57】 子どもが読書への興味・関心を抱くきっかけは保護者への啓発活動が重要と認識しています。保護者への啓発活動につきましては、出産を迎える方に向けた読み聞かせ講習会の開催や新生児・3歳児への絵本贈呈、乳幼児を対象としたおはなし会の実施、未就学児の保護者に対する読み聞かせ手法の習得支援を行っているところです。また、保護者の方が数多くある本の中から読み聞かせのためのおすすめ本を容易に選書できるようにブックリストを作成・配布しています。今後も保護者にもおすすめできる絵本や物語・知識の本を紹介できるようにブックリストの充実を図ってまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
11	私も今考えると子どもの頃にもっと本を読んでおけば良かったと思う。幼い頃、親に読み聞かせてもらった本はいまだに文面まで浮かぶ程、覚えている。親がどんな本を読ませれば良いかという情報を紹介して、本を読むことの良さを小さい頃に植え付けることは大切だと思う。学校や図書館の充実が進んできているようなので、あとはどう導いてあげるかであり、推進計画はとてもよく考えられていると思う。	【P56～58】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。子どものときに身に付けた読書習慣は、生涯にわたって続き、子どもは読書をする大人の姿を見ることで読書意欲を高め、自主的な読書習慣を身に付けていくと考えております。子どもの読書習慣の形成に大きく関わる保護者に対して出産を迎える方に向けた読み聞かせ講習会や、乳幼児を対象としたおはなし会の実施、新生児・3歳児への絵本贈呈、未就学児の保護者に対する読み聞かせ手法の習得支援などの講座を通じ、子どものときに本を読むことの大切さを一層周知してまいります。	○
12	幼児（未就学児）・児童の保護者に向けた取組の中に“祖父母”を加えてはどうか。孫を連れて図書館に来館される“おじいちゃんやおばあちゃん”をよくお見かけする。共働きの両親に代わって読み聞かせをする機会があると思う。そういった方々へも様々な提案をしていってはどうか。	【P57】 事業「未就学児の保護者等に対する読み聞かせ手法の習得支援」について、「 <u>図書館職員が保護者等に読みきかせのノウハウを提供することにより</u> 」という記載を、「 <u>図書館職員が保護者等（親や祖父母等）に読みきかせのノウハウを提供することにより</u> 」とし、祖父母も対象としていることを積極的にPRしてまいります。	◎
13	巷間新聞不購読者が増加していると聞く。八十路を過ぎた小生は、朝起きると新聞を目にすることが当たり前の人生である。文字に親しむというのは、家庭環境にも影響するものと思われる。子ども達も「家読」に馴染むのも大人の背を見て自然と身につくのではと思う。文化のイノベーションでアナログからデジタル化する時代、印刷物に馴染む時間が減るのは致し方ないものと思う。学生時代に本に馴染むことの大切さを感じる。	【P57～58、67】 子どものときに身に付けた読書習慣は、生涯にわたって続き、ご提言の通り、子どもは読書をする大人の姿を見ることで読書意欲を高め、自主的な読書習慣を身に付けていくと考えております。区立図書館では学生時代に本に馴染むことの大切さを感じていただくために、絵本や児童書、10代向けの本を年代ごとに豊富に揃えていることについても情報発信を行っており、ホームページやSNSのほか、ブックリストの作成・配布等により、情報発信をしております。今後も引き続き、多くの方に知っていただけるよう情報発信に力を入れて取り組んでまいります。 また、区ではデジタル化する社会においても、実際に「紙の本」を手にとるという行動は感性を育む視点で大変重要と考えており、これからもアナログ面の大切さについてもしっかり伝えてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
14	読書活動推進のための具体的な取組の中で、家読の推進がとても良いと思う。今まで子どもが読書や読み聞かせをする機会があっても、子どもの感想を聞くことしかしなかった。大人も子どもも同じ本を読んでそれぞれの感想を話し合うことは、本を通してコミュニケーションを深められるからである。リストを見るのが楽しみである。	【P58】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。本計画では、子どもの読書習慣の形成に大きく関わる保護者に対して、家庭内で同じ本をよみ、感想を話し合ったり、本を薦めあったりするなど家庭における子どもと保護者の読書活動を推進していくこととしています。家読により、読書を通じた家族のコミュニケーションが深まると考えております。本計画において家読の推進を重点事業に掲げ、積極的に事業を展開していきます。家読用のブックリストにつきましては、多くの方の意見をいただきながら作成してまいります。	○
15	新規の重点事業で行われる「家読の推進」がとても良いと感じた。本の感想を話し合うことで、感想の違いや物事の捉え方の違いがわかり、より本を深く読み、読書をおもしろく記憶に残るものにしてくれると思った。本来、読書は一人で行うことであるが、孤独になりがちかもしれない。人との共有を図ることで、コミュニケーションの練習にもなり人格形成の面でも良いのではと思う。	【P58】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。子どもの読書習慣の形成に大きく関わる保護者に対して、家庭内で同じ本をよみ、感想を話し合ったり、本を薦めあったりすることで、家読はコミュニケーション能力や表現力、豊かな感性が育まれ、人間性を育む礎となることにつながると考えております。本計画において家読の推進を重点事業に掲げ、積極的に事業を展開していきます。	○
16	子どもに向けた読書活動の推進に賛成する。子どもたちだけでなく、親世代にも積極的に本を読んで欲しいと考える。読書という環境は、家の中でも育まれるべきだと考えている。従って、「推進計画第4章 ④家読の推進」に対して、とても良い事業だと思う。図書館の司書が中心となり、ブックリスト作成も親を巻き込んでいければよいと思う。	【P58】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。子どものときに身に付けた読書習慣は、生涯にわたって続き、子どもは読書をする大人の姿を見ることで読書意欲を高め、自主的な読書習慣を身に付けていくと考え、本計画では、読書環境が家庭内でも育まれるように家読を推進してまいります。「家読用のブックリストの作成」事業について、図書館員が中心となり、リストを作成する予定ですが、作成にあたり、多くの方のご意見も参考にさせていただく予定です。58ページの事業内容の中にその旨を追記いたします。	◎

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
17	ブックスタートを以前、映像で観たことがあり、その場で絵本や資料をまとめていただくことができ、図書館の人が読み聞かせ等をしてくれるものだと思っていた。実際に妻が子どもを保健所に連れて行った際の話聞いたところ、資料を手渡されただけで絵本の配布もなく、読み聞かせもなかったようである。また、保育園に通っていると絵本をもらうことができなかったのも、ブックスタートの時にもらえると良いと思う。せっかく図書館の人が来ているのだから、読み聞かせもあると良いのではないかな。	【P56、57】 「乳児健診等におけるブックスタートの支援事業」は、4ヶ月健診の保護者を対象に、図書館やおはなし会、読み聞かせの手法等を案内することとしておりますが、ご指摘のとおり、実施スペースの確保が難しい状況もあり資料配布に留まっております。今後は動画配信等、実施方法を工夫しながら、多くの保護者等の方に満足していただける取り組みを行ってまいります。 絵本の贈呈につきましては、ブックスタートの際ではなく、新生児には子ども医療費助成の申請手続きの際に、3歳児には3歳児健診の際にお渡ししております。	○
18	新生児・3歳児絵本贈呈事業はとても良いと思う。ブックスタート事業も本と出会うきっかけになる。	【P57】 絵本の贈呈事業に対してご評価いただきありがとうございます。新生児・3歳児への絵本贈呈事業やブックスタート事業が生涯にわたって読書を楽しむ習慣につながることを期待し、引き続き取り組んでまいります。	○
19	幼い頃、親に本を読んでもらい、本が好きになり、友達にも勧めた経験がある。今の子どもたちは、授業が終わった後、学童やにこにこすくーるに行き、図書館に行く時間がないので、図書館の本などが常にあると良いと思う。また、おはなし会など、催し物を行うなどして、本との触れ合いを大切にすること。	【P59、65】 学童やにこにこすくーるにおいても子どもたちが様々な本に気軽に触れあったり、おはなし会の機会を創出できるような運営に努めてまいります。 また、区立図書館でも定期的におはなし会を開催しているほか、体験型おはなし会やワークショップを開催するなど、子どもたちが本に触れあうきっかけづくりとなるような取組を行っており、今後も更に推進してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

《施策の柱2》

小・中学生の主体的な読書活動・学習活動を支援するため、魅力ある学校図書館づくりと図書館機能の充実に向けた取組を推進する ～学校図書館を中心とした、小・中学校における読書活動の推進～

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
20	読書の習慣をつけることが大切だと思う。本の楽しさは本を選ぶところから始まると思うので、生徒に図書館に行く機会を学校で作り、本が身近にたくさんあるということを知るのが良いと思う。特にゆいの森はとても広く、本を探す楽しさがよりわかるのではないか。その際、マナーなども覚える機会もあると良い。図書館と学校の連携が子ども読書活動推進には不可欠だと思う。	【P44、62】 小・中学校では、区立図書館を訪問し、図書館にある本の探し方や借り方について学ぶ機会を設定しております。また、区立図書館司書が学校を訪問し、区立図書館の利用方法等を紹介しております。ご提案いただきました、図書館の利用マナーについてもこうした機会をとらえ案内してまいります。貴重なご意見ありがとうございます。	○
21	そもそも図書館の利用率と、文章を読んでいるかということは比例していないと思う。中・高校生は、読書離れと言われているが、小説投稿サイトなどで、文章を読んでいる人は、たくさんいるからである。図書館を利用するとしたら、調べ学習の時などである。どのように、本を探したらいいか、相談できる窓口や相談会などをしてくれたら、それをきっかけにして、図書館に親しみができるかもしれない。	【P44、60、61】 貴重なご意見ありがとうございます。現在、学校の授業において、学校図書館を活用して調べ学習を進めており、児童生徒が図書や資料に関して学校司書に相談する体制が整っております。また、区立図書館においても、本の探し方のほか、調べるための資料を探すなどのレファレンスサービスを実施しております。こうしたサービスについて児童生徒にさらに周知し、調べ学習等を通じて、子ども達が図書館に親しみを持ってもらえるよう努めてまいります。	○
22	学校が図書館訪問するのも良いと思う。図書館を利用したことのない子が学校以外で本と触れ合うことができる。	【P44、62、66】 小・中学校では、児童生徒が区立図書館を訪問し、図書館内を見学したり、図書館利用について学んだりする機会を設定しております。さらに、中学校では職場体験・勤労留学として図書館の仕事を体験する機会も設定しております。今後につきましても、子ども達が学校以外の場所で本と触れ合うことができるよう努めてまいります。	○
23	子ども読書活動推進計画に賛成する。読書の好きな人が学校の先生に指導して、理解を深めることが必要だと思う。子どもたちもコロナ中で図書館に足が遠のいている。	【P44、62、66】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。小・中学校では、児童生徒が区立図書館を訪問し、図書館を見学したり、図書館利用について学ぶ機会を設定しております。 引き続きコロナ禍においても、子ども達が図書館を利用していただけるよう工夫してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
24	小中学校では学校でのご指導のもと、読書週間や夏休みの読書感想文など、読書に親しむ時間と環境を作っていただき、感謝している。	【P44、61】 いただいたご意見を参考に、今後も各種コンクールの開催など、子どもたちが読書に親しむ環境づくりに努めてまいります。学校図書館活用事業の一層の充実を図っていきます。	○
25	夏休みの「調べる学習」のイベント募集があるが、いつも抽選に外れていた。希望者に比べて回数が少ないように思う。夏休みの調べる学習の講座をもっともっと回数を増やして欲しい。読書感想文の書き方や本の選び方などの講座もあると良いと思う。	【P62】 毎回ご応募いただきながらご利用いただくことができず大変申し訳ございません。図書館における調べる学習チャレンジ講座につきまして、さらに多くの子ども達が参加できるよう実施回数を増やしてまいります。また、読書感想文や本の選び方につきまして、学校での指導を充実させてまいります。	○
26	私は小学生の時に、夏の学習等で調べる学習コンクールに応募をしたり、柳田先生への手紙を書いたりした。本に触れる機会を作っていただけたのは、こうした取組みのお陰であったと、この推進計画を読み、感じた。私はラッキーなことに、コンクールで受賞させていただいたり、柳田先生へ書いた手紙でも、何度か賞をいただいて、サイン入りの絵本などをいただいたりした。そうした経験もあり、本をますます好きになったと思う。本から学ぶことの楽しさを感じ、大学生になった今でも多くの本を読んでいる。	【P44、45、61、66】 区の読書活動の推進の取組に対してご評価いただきありがとうございます。学校や図書館で開催している各種コンクールを通じて、子ども達が本や読書に関心を持っていたことは大変喜ばしいことと思っています。今後も子ども達が本に触れ読書に親しめる機会や場の提供の充実に一層努めてまいります。	○
27	学校の図書室を利用するような調べものの授業を増加させることにすれば、読書活動が促進されるのではないかと。	【P44、60】 区立小・中学校では、全教科等において学校図書館を計画的に利用し、図書館資料を使って調べ学習を行う授業等を行っております。今後も授業における学校図書館の活用を一層推進し、子ども達の読書活動の促進に努めてまいります。	○
28	実際に行われているかもしれないが、今後、次のようなことができたと思う。 ・小中学校で、読んだ本（おすすめの本）を小グループで友だちに熱く語る（薦める） ・縦割り班、小グループで低学年に読み聞かせをしてあげる（例：1年生に読んでもらいたい本を2年生が選んで読んであげる）	【P44、60】 現在、各学校では、推薦図書、課題図書の設定、読書推進期間（読書月間）の設定、ビブリオバトルの開催やおすすめの本のPOPづくり、学年を超えた交流による読み聞かせの充実、さらには地域、保護者の読書ボランティアとの連携など、読書活動を推進するための様々な取組を工夫しながら行っております。いただいたご意見を参考にしながら、今後も読書活動の一層の活性化に向けて工夫していきます。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
29	新聞を読む子どもは賢くなる。新聞でいろいろな意見があることを知り、自分の考えを持つことができる。新聞を読めば学力が上がり、読解力がついて更に考える力が伸びる。	【P61】 各学校では、児童生徒が新聞に触れ、世の中の動きを知るとともに、読解力等の向上を図る環境を整えております。例えば、学校図書館では、毎日、各新聞の一面を図書館前の廊下等に掲示し、新聞によって記事に違いがあること等を児童生徒が自ら気付くよう工夫を図っています。新聞でどのような言葉や表現が用いられているかを知ることにより、子ども達の語彙力や表現力、また自ら考える力の向上も図っています。	○
30	子どもが質の良い睡眠をとることを推進することによって心が安定し、読書力が促進されるのではないかと。 ・学校で子どもの睡眠時間を調査する。 ・質の良い睡眠をとるための方法を啓蒙する。 ・質の良い睡眠をとることによって学力も向上する等の啓蒙をする。	学校では、全国学力・学習状況調査の中で、「普段（月～金曜日）、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか」という質問があり、子どもの睡眠時間について聞いております。本調査では、子どもの睡眠時間と各科目の平均正答率に相関関係があることが分かっています。また、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進しているほか、養護教諭とも連携し、睡眠の大切さについての啓発を行っており、今後も引き続き取り組んでまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

《施策の柱3》

子どもの質の高い読書活動と、誰もが読書に親しめる環境づくりを進め、区立図書館をさらに充実する ～区立図書館における読書活動の推進～

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
3 1	私は親になるまで、ほぼ読書をせずに生きて来た。振り返ると自分に読書習慣がなかったのは、読んでみてもおもしろいとか引き込まれるとかあまり感じなかったからだと思う。	【P45、66】 読書は、多くの言葉や文章に触れることで語彙力や文章力、教養や知識が身に付くほか、想像力が豊かになり、コミュニケーション力が高まるなど様々な効果があり、大人にとっても読書をすることは大変有意義なことであるとされています。 区では、子どもだけでなく大人の方にも、本に触れ読書に親しむ機会やきっかけを提供するため、読書に関する講演会、大人のためのおはなし会等のイベントの開催、街なか図書館など身近な場所で本に親しめる環境の整備、大人のためのおすすめ本セットの作成、ホームページでのおすすめ本の紹介やPOPの作成等の様々な取組を行っております。 今後も引き続き、あらゆる機会を通じて、本に触れ親しむきっかけづくりに努めるとともに、SNSなどの様々な媒体を活用した情報発信を強化してまいります。	○
3 2	街の本屋さんが無くなってゆく現在、図書館は大変重要な場所であり、自分の行ける時に一人でも行って時を過ごせる場所である。	【P45】 図書館は、本を選んで借りて帰るだけでなく、その場所で読書を楽しんだり、学習したりするなど、いつでも自由に生涯学習に取り組める場所です。 ゆいの森あらかわをはじめ図書館では、自らの居場所として、ゆったりと快適に過ごせる空間を提供するとともに、各地域の特色を活かした運営を行っています。今後も引き続き、子どもから大人まで区民の身近な生涯学習の場としてさらに親しまれる図書館づくりを進めてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
33	・図書館を利用する場合、静かに本を読む空間と、友だち同士や家族で行って、多少話しても良い空間があると良い ・読書習慣が無い人は、まだ良い本に出会ってないかもしれないので、おすすめ本から読んでみると楽しさがわかる ・心と体と共に成長することが大切なので、スポーツイベントで図書のお薦めをする	【P45、66】 区立図書館では、従来のように静かに本を読む空間だけではなく、周りに気兼ねすることなく気軽に会話もできる空間としての環境づくりを進めております。このため、ご意見を踏まえ、 6 施策の考え方の施策の柱3の2つめの○（利用者の居場所の記載）の説明文中に、<u>「静かに読書できる空間に加え、周りに気兼ねすることなく気軽に会話ができる」旨の記載を追記させていただきます。</u> また、図書館員によるおすすめ本の紹介を引き続き実施していくとともに、計画本文66ページの「利用者によるおすすめ本の紹介」事業を実施することにより、新たな本との出会いのきっかけづくりに一層努めてまいります。 さらに、スポーツイベントをはじめ各種のイベント開催と併せた本の紹介をさらに進めていくため、計画本文45ページに、<u>あらゆるイベントにおいて関連書籍等の紹介を行っていく旨、記載いたします。</u>	◎
34	中学生・高校生向けの蔵書の整備がとても大切だと考える。「継続」に賛成である。しかし、「拡充」の中学生・高校生向けのコーナー等の読書環境の整備の「一緒に勉強し、語り合える場の提供」には疑問がある。図書館では中学生・高校生が語り合わず個人で勉強したいニーズが高いように感じる。交流するのであれば、SNS上でおすすめの本や勉強方法の意見交換をし、それを実行するために図書館を利用するのが良いと思う。居場所としての機能拡充には賛成である。	【P45、63】 中学校・高校生向けの資料につきまして、これまでも蔵書の整備を進めてまいりましたが、今後も引き続き、アンケート等も参考にしながら、さらなる整備に努めてまいります。 また、ご指摘いただきました、「個人で勉強できるスペースに加え、中学生・高校生と一緒に勉強し、語り合える場を提供することにより」という記載に改め、目的に応じてご利用いただけるよう周知を図ってまいります。	◎
35	「（仮称）荒川区読書ひろめ隊の結成」に一番期待している。どんな運用になるのかとても楽しみで、早くいろいろ決定しないかワクワクしている。区民の方の協力の上、「読書を愛するまち・あらかわ」が広がるのはとても理想的である。	【P45、69】 「（仮称）荒川区読書ひろめ隊」は、新たに計画に位置付けました「小・中・高校生を対象とした読み聞かせ講座」の受講者や小・中・高校の図書委員、ティーンズスタッフ、子ども司書等を中心として結成する予定であります。読み聞かせ会やイベントを実施して、「読書を愛するまち・あらかわ」の理念と読書の楽しさを区内に広げてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
36	「（仮称）荒川区読書ひろめ隊」は、小・中・高の図書委員とティーンズスタッフが中心となるようで、ぜひ結成してほしいと思う。	【P45、69】 「（仮称）荒川区読書ひろめ隊」は、新たに計画に位置付けました「小・中・高校生を対象とした読み聞かせ講座」の受講者や小・中・高校の図書委員、ティーンズスタッフ、子ども司書等を中心として結成する予定であります。読み聞かせ会やイベントを実施して、「読書を愛するまち・あらかわ」の理念と読書の楽しさを区内に広げてまいります。	○
37	図書館からツイッターやLINE等で情報が届くと、本を読もう、図書館に行こうと思うきっかけになるのではないかな。もう既にあり、私が知らないだけかもしれないが、情報がもっとあると良いと感じている。	【P45、63】 図書館では、図書館等でのイベントや事業の紹介の他、吉村昭記念文学館では吉村昭作品の紹介などをツイッターやフェイスブックのSNSを活用した情報発信を行っております。今後もさらにSNS等を活用して情報発信を強化してまいります。	○
38	電子書籍の導入にも賛成で、レビュー機能などがつければより良い。本を紹介しあうPOP作成コンテストの実施もとても良いと思う。自分が紹介した本がみんなにどう感じてもらえたのか等、作成だけに止まらず、今後、レビューなどの展開ができれば更に良いと思う。	【P45、67】 電子書籍は、障がいがあり来館が困難な方や新型コロナウイルス感染症への対応等で来館しなくても読書に親しめる、さらには文字を拡大したり音声読み上げができるなど、大変有効なものと考えております。一方で経費やコンテンツの少なさといった課題もあり、そうした点も十分に踏まえながら、導入検討をおこなってまいります。 また、POPへのレビューを行うことは、本が人と人をつなぐ有効な取組であると認識しており、効果的な手法について検討してまいります。	○
39	中学生を持つ親として、昨年・今年と自粛生活の中でPC、タブレット、スマートフォンが日常生活で必要になっていく中、読書の必要性和アプローチの難しさを感じた1年だった。電子書籍の導入は良いと思う。学校にあるタブレットなどに活用できたら、学校での読書活動に広がりが出るのではないかな。電子書籍へのハードルも下がってより良いと思う。	【P45】 中・高校生に身近で使いやすいツールであるスマートフォンやタブレットを媒体とする電子書籍は、中・高校生の読書活動の促進にとって有効なツールであると考えております。一方で経費やコンテンツの少なさといった課題もあり、そうした点も十分に踏まえながら、導入検討を行ってまいります。 学校のタブレットへの活用については、参考にさせていただきます。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
40	発達障がいや知的障がい児への支援は是非ともお願いしたい。障がいのある子どもたちにも本の楽しさに触れる機会を作ってあげて欲しい。	【P45】 障がいのある子どもたち等へのサービスにつきましては、本計画では、読書バリアフリー法の施行を踏まえ、視覚障がい者に加え、発達障がいや知的障がいのある子どもへの読書支援の充実を重点事業として位置付けております。計画本文64ページに記載しております、視覚障がい者等が利用しやすい書籍の充実、障がい者向け図書資料の展示会・体験会の実施、発達障がい・知的障がいの子どもたちへの読書支援の充実、気軽に読書を楽しめるスペースの提供など、様々な事業・支援を行うことにより、障がいの有無に関わらずすべての子どもたちが読書に親しむことができる環境を整えてまいります。	○
41	障がい者に向けて、図書館利用のPRは充分なのか。ただ待っているだけでなく、読書支援を是非進めてほしい。	【P45】 本計画の策定にあたりまして、区内在住で特別支援学校に通う子どもの保護者向けのアンケート調査を実施いたしました。そのアンケート結果によりますと、LLブックやマルチメディアデージー図書といった資料の存在を知っている保護者はほとんどいないという結果でした。 こうした結果を踏まえ、区報やホームページ等での周知をはじめ、「障がい者向け図書資料の展示会・体験会」を実施することにより、図書館における障がい者向けサービスの認知と利用の向上を図るとともに、読書に支障がある方向けの図書資料や機器等の展示、実際に触れることができる体験の場を提供し、PRに努めてまいります。 また、図書館への来館を待っているだけではなく、特別支援学級等への出張おはなし会を実施するなど、アウトリーチについても取り組んでまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
4 2	字を読むことが少し苦手なので、書棚で背表紙だけで読みたい本を探し出すことを難しく感じる。スペースの問題もあるかもしれないが、表紙が見えるように置いてある本がもっとたくさんあるとありがたい。中学生のオススメコメントと一緒に本が展示されていたことがあったが、とても刺激になったので、定期的にああいう展示をしてもらえたらと思う。	【P65】 現在もおすすめの本が見やすいように本の表紙が見えるように置くことを心掛けておりますが、ご指摘のとおりスペースの関係で冊数は限られてしまいます。より多くの本の表紙を見せられるよう、適宜入れ替えるなどの工夫をまいります。 また、中学生がおすすめする本を紹介するコーナーをさらに充実するとともに、「本を紹介しあうPOP作成コンテストの実施」を通じて、子どもたちの読書意欲を喚起し、新たな読書活動に繋げてまいります。	○
4 3	小さい字が見えづらいので字の大きな本を増やしてほしい。大活字本ではなく文庫で文字が大きめの本が良い。	【P67】 区では現在、大きな文字の資料として主に A5 サイズの大活字本をご用意しております。ご要望いただきました文字が大きめの文庫サイズの本につきましては、早期に導入を進めてまいります。	○
4 4	荒川区は、本の冊数がどれだけ伸びたか、または伸ばそうと数だけを気にしているように感じられる。自分から読みたいと思われる環境に持っていくことが必要だと思う。例えば、目に障がいがある方にはプロによる朗読の会を開催するなど、色々な手段を用いて興味を持たせることを一考してほしい。	【P42、45】 ご指摘いただきましたとおり、本の冊数がどれだけ多くなったかだけではなく、本をどのようにして子どもたちに読んでもらえるかという環境づくりが重要であると考えております。区では、子どもたちが自分自身で読書しようと思えるようなきっかけづくりとして、乳幼児、児童とその保護者に対し、本への興味や関心を喚起するため、ブックリストを作成し、配布しております。 また、ご提案いただきました、「色々な手段を用いた興味喚起」につきましては、おすすめ本の紹介パンフレットの作成やSNSを活用した情報発信、各種参加型イベントの実施等により、あらゆる機会を通じて積極的に取り組み、興味・関心の醸成に努めてまいります。 さらに、おすすめの本が見やすいように本の表紙が見えるように置くことを進めてまいります。 具体例としてお示しいただきました、視覚障がいをお持ちの方への朗読の会につきましては、対面音訳サービスとして実施しておりますので、こうした取組につきましても、広く周知してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
4 5	ティーンズの方へは映像化される予定の本等の演出家によってどのような違いがあるのか楽しめると思う。原作のほうがいい場合が多い気がする。「ウォーリーをさがせ」のゲームも楽しかった。	ティーンズ向けの具体的なご提案をいただきましてありがとうございます。ご指摘いただきました点を踏まえ、映像化された書籍と映像作品について、様々な観点から特集コーナーで紹介するなど、中高生が本に興味・関心を持ってもらえるような取り組みを行ってまいります。	○
4 6	区立図書館は子ども、ティーンズ、大人と世代に合わせた図書をうまく分けて置いていると思う。生涯にわたる読書習慣を身に付けるには、異なった世代向けの本に、主にティーンズがチャレンジしやすいように風通しがよくなればよいと思う。	【P70】 各世代向けの蔵書配置についてご評価いただきありがとうございます。 区では、ティーンズ資料につきまして、中高生向けに出版されている本だけでなく、わかりやすく書かれている専門書も収集しております。 また、異なった世代向けの本にティーンズがチャレンジしやすい環境を整えることにつきましては、中学生・高校生向け吉村昭等のおすすめ本のリストを作成し、吉村文学に触れるきっかけづくりを行うなど、ご指摘いただきました趣旨を踏まえ、ティーンズの読書活動の支援を行ってまいります。	○
4 7	子どもの読書活動に対してはいろいろと充実している様に思う。 子どもと高齢者をつなぐイベントなど、高齢者の読書活動の推進についても考えていってほしい。親子三世代でも楽しめる図書館になってほしい。	【P42、45】 子どもの読書活動の取組に対してご評価いただきありがとうございます。ご意見いただきました子どもと高齢者をつなぐイベントにつきましては、本計画において、多世代交流に向けた取組を重点事業に位置付けており、小中高生が、未就学児や高齢者に読み聞かせができるスキルを身に付けられるよう、スキルアップのための読み聞かせ講座を実施してまいります。さらに、この講座を受講した子どもたちを中心として、子どもたちによる地域の未就学児や高齢者を対象とした読み聞かせ会を実施することにより、多世代が交流できる場を創出してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
48	幼児や小学生、またはその親子が参加する活動やイベントが数多く計画されている内容を読んで素晴らしいと思った。小さい子どもはもちろんだが、中高生と大人とが親子関係なく一緒に活動できる内容、未来の地域の担い手の一翼である中高生が地域と共に活動できるような場所づくりや内容を推進していただきたいと思う。	【P42、45、69】 計画案に対してご評価いただきありがとうございます。区では、「（仮称）荒川区読書ひろめ隊」の結成を予定しており、「小・中・高校生を対象とした読み聞かせ講座」受講者や小・中・高校の図書委員、ティーンズスタッフ、子ども司書等、読書活動に関心のある子どもを中心とした活動により、読み聞かせ会やイベントの実施、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言の周知などを予定しております。こうした活動に地域の方にもご参加いただき、子どもと大人が一体となった取組みとなるよう検討を進めてまいります。 「（仮称）荒川区読書ひろめ隊の結成」の事業内容に地域の方にもご参加いただけるような活動を目指していく旨、追記いたします。	◎
49	子ども読書の現状について、周りに気兼ねしない場所の設定。ゆいの森の芝生広場等で青空のもと、読み聞かせはできないのか？	【P45】 区立図書館は親子での読み聞かせなどは周りに気兼ねすることなく行えるということを前提に運営しております。計画本文45ページの6 施策の考え方の施策の柱3の2つめの○（利用者の居場所の記載）説明文中に、「周りに気兼ねすることなく気軽に会話ができる」旨の記載を追記いたします。 また、ゆいの森芝生広場におけるおはなし会は令和2年度に実施しており、今後は、尾久図書館のテラスにおけるおはなし会の開催など、更に充実してまいります。 さらに多くの方にご利用いただけるよう芝生広場の活用案を検討してまいります。	◎

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
50	区立図書館における読書活動について、ゆいの森への乳幼児のための畳の部屋の設置を希望する。現在、親子で座ってゆっくり本を読むスペースがない。すべてイス席なので不安定で危ない。子どもを膝の上に乗せてゆったりとした気持ちで本を読んであげたい。また、紙芝居台があると、紙芝居の楽しみが2倍に膨れると思う。	ゆいの森のえほん館では、読み聞かせ等親子で本を読んでもいただく場所として、えほん館内の座席、隣接するホールの閲覧席のほか、えほん館と繋がる、靴を脱いで利用できる遊びラウンジがございます。 ご指摘いただきました畳の部屋の設置につきましては、スペースの都合上難しい面がございますが、ホールのステージ部分にマットを敷くなど親子が寛ぎながら読めるスペースの確保について検討してまいります。 紙芝居舞台については、現在も貸出し可能ですので是非ご利用下さい。	○
51	図書館は、子どもたちが学校生活等に馴染めずに心が疲れている時にそっと寄り添ってくれる場所であってほしいと思う。読書活動を通して、学校へは行けなくても、図書館へは行きたいと思う子どもたちの「心の栄養」を供給する居場所としての図書館を計画に盛り込んでほしい。	【P45】 図書館が、家庭や学校以外の心の居場所となる第三の居場所（サードプレイス）となるよう、居心地の良い、快適な環境としていくとともに、子どもたちが図書館に来て、元氣になれるような本を紹介する特集コーナー等の設置についても検討してまいります。	○
52	児童向けの本も大人が読んでも味わい深いものがあるが、男性一人で児童書コーナーにはなかなか長居しづらい。ティーンズのマンガコーナーのようにいろんな世代がどこの本棚でも見られるといいと思う。赤ちゃんの頃からきめ細やかな読書活動を推進する荒川区の姿勢は、いつも応援している。	【P42、43】 児童書を大人になってから読み返すと子どもの頃とは一味違った見方、感じ方ができるなど、児童書や絵本には世代を超えた魅力が詰まっていると考えております。 区では、家族等で同じ本を読み、読んだ本の感想を話し合うことにより、読書を通じて家族のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読（うちどく）」の普及・啓発を行うこととしており家読の推進を重点事業に位置付けております。 この家読を推進するにあたり、大人の方にも児童書や絵本を読んでもいただきたいという取組みをしっかりと分かりやすく発信し、えほん館や児童書コーナーにも大人の方が気軽に利用できる環境づくりに努めてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
5 3	小学生の時、夏休みの宿題をするために工作の本を借りに行ったが、ほとんど貸出中であつた。借りられるようになったのは、夏休みが終わる頃であつた。出遅れたときはすぐに無くなってしまふ。この時期だけは 1 人 2 冊とかルールが欲しいと思った。	夏休みに多くの図書館の本が借りられてしまい、借りることができたのは夏休みの後半であつたとのこと、工作の宿題に影響が出てしまい、申し訳ございませんでした。 夏休みの宿題や調べ学習などのために多くの資料が貸し出され、書架の本が少なくなることについては課題として認識しております。 今後も調べる学習用の資料をさらに充実していくとともに、夏休みなど、特に多くの資料が貸し出される時期については、ご提案のようなルールについても検討してまいります。	○

《施策の柱 4》

「読書を愛するまち・あらかわ」のまちづくりと、地域人材を活用した地域ぐるみの読書活動を推進する ～地域が一体となった読書のまちづくりの推進～

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
5 4	大人も読書する姿を身近に。リサイクル本や寄贈本など、駅の中に自由に借りられる図書コーナーを作つて（サンパール、区役所などでも）、「読書を愛するまち・あらかわ」を宣伝してはどうか。	【P46】 区では、平成 30 年 5 月に「読書を愛するまち・あらかわ」を宣言し、同宣言に基づき、誰もが、いつでも、身近に本に触れられる、あらかわ街なか図書館を拡充してまいりました。 令和 3 年 3 月 10 日現在、「あらかわ街なか図書館」は 47 か所まで増えてきたところでございます。その内訳は、公共施設に 26 か所、病院・薬局や公衆浴場、飲食店、商店街等に 21 か所となっております。 ご提案いただいた駅の中における図書コーナーの設置につきましては、鉄道事業者に対し、働きかけを行ってまいります。 街なか図書館の本は人と人をつなぎ、コミュニティの醸成にも寄与しており、今後も継続して取り組んでいくとともに、ご提案いただきました、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言の PR も併せて積極的に推進してまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
55	街なか図書館事業があることを知らなかった。病院など公共の場は充実させているようだが、商店街や個人事務所、個人宅への協力をもっと進めてもいいのではないか。街なか図書館の書棚は各館長などがお気に入りの、思い入れのある本で構成し、その特色が情報誌などで発信されると「読書を愛する街あらかわ」の印象も深まると思われる。まちを訪れた人、暮らす人、地域の子どもたちが自由に手に取り、本を通じて読書愛好家の大人と触れ合える場として、図書館がその事業をもっと推進しても良いのではないかと考える。	【P46】 区では、平成30年5月に「読書を愛するまち・あらかわ」を宣言し、同宣言に基づき、誰もが、いつでも、身近に本に触れられる、あらかわ街なか図書館を拡充してまいりました。 令和3年3月10日現在、「あらかわ街なか図書館」は47か所まで増えてきたところでございます。その内訳は、公共施設に26か所、病院・薬局や公衆浴場、飲食店、商店街等に21か所となっております。それぞれの街なか図書館には、各館長のお気に入りの本や館長からご要望をいただいた図書館のリサイクル本が置いてあります。 ご提案いただきました、個人事務所、個人宅への協力につきましては、個人宅への設置には課題があるかもしれませんが、多くの方がいつでも気軽に本に触れられるという条件を満たしているようであれば、設置の可能性はあるのではないかと考えております。 街なか図書館の本は人と人をつなぎ、コミュニティの醸成にも寄与しており、今後も継続して取り組んでいくとともに、ご提案いただきました、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言のPRも併せて推進してまいります。	○
56	美術館や文化館などとのコラボレーション展示があるといいと思う。作品や原画と関連の本や物語の資料となる本などの展示があると、本の世界が深まるのではないか。図書館の本だけの特設展示だけでなく、展覧会+書棚+読書空間が一つになった場が図書館の中にあると魅力的である。	ゆいの森あらかわでは、令和元年度に「いせひでこ原画展」、令和2年度に「堀内誠一原画展」を開催し、多くの方に絵本のすばらしさ、原画の魅力を感じていただきました。 また、ゆいの森あらかわ1階エントランスホールにおいて、様々な立場の人々がお互いを尊重しながら共生する社会を目指し、「アートがむすぶ ココロつながる」をキーワードに、区民相互が文化芸術活動を交感する展覧会を開催し、ご提案のように関連図書の紹介も併せ、多くの方にご来館いただきました。 今後ともご提案いただきました事例も参考にさせていただきながら、ワクワクするようなイベントを実施できるよう努めてまいります。	○

◎：計画に反映する（内容の充実）反映部分に下線

○：既に盛り込んでいる

☆：意見・要望としてお聞きする

《その他》

No.	意見の概要	意見に対する区の考え方	取扱
57	会議室、多目的室の利用を幅広い団体に許可してほしい。利用申請の期限をゆるくしてほしい。	図書館の会議室等は数が少なく、区が主催する・共催・後援する事業、図書館で活動するボランティア団体の事業の利用に限らせていただいております。ご要望にお応えすることができず大変申し訳ございません。ご利用目的が図書館事業に関係することではない場合は、ふれあい館等の一般貸出しが可能な施設等のご利用をお願いいたします。	☆